

## ■都幾川・川のまるごと再生プロジェクト(ときがわ町)

—住民有志主催による、「第1回現地見学会(全域)」の報告—

- ・期日：平成24年7月29日 9:00～16:20
- ・場所：ときがわ町内、嵐山町境から三波溪谷までの(最短で)約7kmの区間の都幾川沿い遊歩道候補地と周辺
- ・参加人数：24名(一般13名、埼玉県東松山県土整備事務所河川砂防部2名、ときがわ町建設課3名、東京建設コンサルタント2名、主催者側スタッフ4名)

### ■見学会(全域)報告

快晴猛暑の中、嵐山町班溪寺前に集合しました。主催者側から川のまるごと再生プロジェクトと、ときがわ町のプラン案の概要説明の後、班溪寺橋から都幾川右岸沿いの遊歩道へと歩き始めました。



〈写真1〉 ときがわ町産ウッドチップを敷いた遊歩道

事業地である嵐山町境から三波溪谷までの約7kmの区間の遊歩道候補地を可能な範囲で歩きました。コースには、既存の道を利用するところ、既存の堤防を利用する所、新たに開発する所、川を渡りたい所などが含まれます。実際に歩いて、現場を見ながらポイントごとに様々な可能性の検討と意見交換を行いました。



〈写真2〉 途中で検討しながら、意見を出し合う参加者

河川の現況構造物、植生や景観等のチェックも現場にて行った。



〈写真3〉 課題の多い現況河川の飛び石など

道中、参加者からは、それぞれの立場で様々な意見が出されました。

予定を変更し、帰りのバスを待つ時間で、三波溪谷からせせらぎホールまで歩き、武蔵嵐山駅行バスの出る時間まで30分ほど意見や感想等を語り合い、本日のまとめとし解散しました。



〈写真4〉 参加者が感嘆した三波溪谷の絶景

全体を歩いてみて、比較的豊富な自然、本流のきれいな水、景観の変化等は好印象でした。外来植物の侵入や自然にそぐわない河道内構造物（護岸、床止め、堰など）など、改善したい所もありました。

また、川の広場、親水公園、三波溪谷等が、バーベキューや水遊びの行楽客で賑わっていたこと、参加者が都幾川の良い所を再発見したことが印象に残りました。

遊歩道計画では、川を渡りたい所があり、自然にできるだけ負荷をかけない工夫として、流れ橋（沈水橋）が有力候補でした。